

被害軽減 明確な成果期待

潘基文(パキムン)国連事務総長は、14日からの国連防災世界会議開催を前に、本紙に寄稿した。概要は以下の通り。(英文の寄稿全文は、14日付のジャパン・ニューズに掲載しています)

◇

4年前の3月、国際社会は、日本を襲った巨大災害から結束することの大切さを学んだ。日本に援助され

潘基文
国連事務総長 寄稿



ることに慣れていた世界の国々は、支援が必要となった日本を助けようと駆けつけた。一方、日本人は外に目を向け、他国の人々が同様の悲劇に遭わないように役立つとした。

私が2011年に福島で会った学生たちは、震災で家を失っていた。慰めと助けを求め

ても当然なのに、彼らはそうしなかった。彼らは、いかなる国や地域も、自分たちと同じ苦しみを経験すべきではないと願った。私は確信した。津波、地震、原子力事故の三重の災害に打ちのめされたにもかかわらず、この「日出る国」は、世界にとって希望の光だといふことを。

日本で国連防災世界会議

が開かれる。今年は、国際社会が逆境をバネに成長し、持続可能な開発に向けた野心的な将来の展望を定め、気候変動に関する新たな合意の達成も目指す重要な年だ。会議は、今年のような節目の中で、最初の里塚となるだろう。

異常気象や都市化、人口増、生態系の衰退が進む世界で、我々は、災害による死亡率や経済的損失を減らすための目標をすぐにも必要としている。仙台の交渉担当者たちには、明確で包括的な成果を出すことが期待されている。

被害を軽減するための道筋ははっきりしている。災害による危険の特性を理解した上で、土地の利用方法を改善し、建築基準を守れば、より強い、災害に負けない力をつけることができるだろう。

持続可能な開発を実現するための我々の活動が今、仙台で始まろうとしている。世界中の人たちにとって、輝かしい未来に通じる道が開けることになる。